

平成29年度 第2回昭和町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成30年2月22日(木)
開会 午後2時00分 閉会 午後4時00分
- 2 会 場 昭和町中央公民館 第2会議室
- 3 出席者
- | | |
|-----------|-------|
| 町長 | 角野 幹男 |
| 副町長 | 志村 武夫 |
| 教育長 | 佐野 勝彦 |
| 教育委員 | 清水 正夫 |
| 教育委員 | 太田 學 |
| 教育委員 | 山田 由美 |
| 教育委員 | 磯部 幸廣 |
| 常永小学校長 | 小林 治夫 |
| 押原小学校教頭 | 飯久保一男 |
| 押原小学校養護教諭 | 雨宮 恵子 |
| 押原中学校養護教諭 | 碓井由紀美 |
| 押原中学校体育主任 | 上野 裕城 |
- (事務局関係)
- | | |
|------------------|-------|
| 総務課長 | 渥美 幸久 |
| 教育委員会学校教育課長 | 五味 隆 |
| 教育委員会生涯学習課長 | 小宮山 毅 |
| 教育指導監 | 古屋 正樹 |
| 総務課総務係長 | 三井 浩樹 |
| 総務課政策秘書係長 | 今村 圭一 |
| 教育委員会学校教育課学校教育係長 | 細田 忠司 |
- 4 協議事項 (1) 昭和町の児童生徒の体と健康について
(2) 昭和町小中学校情報機器整備の基本的な考え方

別紙（議事詳細）

1 はじめの言葉（渥美総務課長）

2 町長あいさつ（角野町長）

※あいさつ内容は省略

3 前会議事録確認

三井総務係長より、平成29年度第1回総合教育会議議事録の確認について説明を行った。

4 議事

（1）昭和町の児童生徒の体と健康について

① 保健室からみた子ども達の様子

押原小学校の雨宮養護教諭、押原中学校の碓井養護教諭より、説明を行った。

（渥美総務課長）

ただいまの説明に対してのご質問やご意見がありましたらお願いします。

（磯部教育委員）

肥満度についてはどのように出しているのか。

（雨宮養護教諭）

肥満度については、計算式があります。計算された数値が20%以上の場合は肥満といいます。数値が20から29の場合は軽度肥満、30から49の場合は中度肥満、50以上の場合は高度肥満に分類されていますが、赤ちゃんや大人でいう肥満度とは違うものになっています。

（磯部教育委員）

データだと小学生の高学年で肥満度が高くなっているが、中学生になっても肥満傾向にあるということですか。

（碓井養護教諭）

中学生の場合には、昭和町内すべての小学校からの健康診断のデータが送られてきます。子どもの義務教育が始まった時から終了するまでの身長・体重の増加の割合がすべてグラフになっています。

(磯部教育委員)

中学校で肥満の子は、小学校の時も肥満傾向にあるということですか。

(碓井養護教諭)

そういうことはないです。中学生の場合には、1月に発育測定を行いました。1年生ではかなりぽっちゃりした体型だったお子さんも肥満度は落ちています。体重については、3年生の男子は秋に部活動が終わるとぐんと体重が増えます。1年生につきましては、ほぼ標準体型に戻ってきます。というのも、やはり運動量が小学校の時と比べて違うからです。また通学する距離も遠いところに住んでいる子どもは2km近く歩いて帰っています。こういうこともあり、1・2年生は体型が絞られてきています。

(磯部教育委員)

中学生は、中学生なりの理由で肥満になるのですか。

(碓井養護教諭)

そうですね。運動部に入っていないお子さんもいるのでそういう傾向があります。

(磯部教育委員)

ありがとうございました。

(山田教育委員)

肥満度がマイナス30のお子さんがいるということですが、その理由は何ですか。家庭的な問題とか精神的な問題があるのか。

(碓井養護教諭)

理由の一つではないと思います。最初は友だち関係や部活動関係と言っていますが、よく話を聞くと、子どもさんの家庭的な背景とか、成績とかを見ていくと理由は一概にこれだというものはありません。家庭に問題があるとか、学校に問題があるとか、成績に問題があるのか、断定はできません。一人のお子さんにいろいろなものが覆いかぶさって耐えきれなくなり、ある時突然、何も食べられなくなる状態になっていきます。また、体質もありますが、マイナス25で痩せになっても、元気に部活動をしているし、給食もおかわりをして食べていますが、体重が増えないという体質もお子さんもあります。痩せていて命の危険があるというお子さんは限られています。

(渥美総務課長)

他にご意見ございませんか。

それでは、②のスポーツの結果からみた子どもたちの様子について、事務局からお願いします。

② スポーツの結果からみた子どもたちの様子について

押原中学校の上野体育主任より説明を行った。

(渥美総務課長)

ありがとうございました。

何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。

(太田教育委員)

私の勤務していた時を振り返ってみると、子どもたちが休み時間に外遊びをしない。特に小学生の場合外に出たがらない。出たがっても先生方の姿が見えない。休み時間の有効活用というものをもう一度啓発するべきだし、休日も自転車に乗って出かける姿を見かけることはあるけれども、遊んでいる姿を見ない。遊びもないのかなと思う。社会そのものの公共施設の活用はともかく、例えば川の近くは危ないなど、危険方が優先されてしまって、子どもたちはそういうことを通して生活体験を積んでいくのであって、社会そのものが隔離させてしまっている。逆に子どもたちの自由さを奪い取っているのかと思う。怪我したりして学ぶところがあるのに、なにか転ばぬ先の杖みたいところが優先されてしまって、私は勤務しているときもそう思っていた。やっぱり、擦りむいたり、転んだりしながら経験を積み重ねていくのかなと思う。今話を聞いて実感しました。そういう結果として、体力向上をしていくのであって、これをしたから数値が上がったから良かったのではなくて、もともとの生きる力みたいなものがベースになっていくことが良いと思う。それと、話は戻りますが、不登校の児童、生徒も気になるところですが、小中一貫とか小中連携の中で、中1ギャップという言葉がありますが、小学生の時は学校に来ていた子どもが中学生になると何かのきっかけで来なくなってしまう。中学校の先生たちが小学校の担任もしくは生活指導の先生から情報を得る機会というのはあるんでしょうか。そういうものを密にして、私が勤務しているときに小学1年生のクラスが崩壊してしまったことがあって、山の小さな学校でしたので、保育所に行って先生に話を聞いたところ、学校では知り得ていなかった家庭の事情とか得ることができ、指導方法等を変えて、何とか改善に結びつけたことがありました。ただ、小学校と中学校では子どもたちと先生のかかわりもだいぶ違うので、もしかしたら小学校の先生の方が情報を持って

いる場合もある。もちろん卒業式前後に意見交換会があるにしても、できれば日常的に状況によって情報交流をしていったらどうでしょうか。

(佐野教育長)

上野先生の資料の最後のまとめのところで、体育の授業改善と休み時間など余暇の時間に体を動かす遊びを増やすと書いてあると思うんですけども、改めて教育委員会の立場として体育の授業改善というのはどのようにやっていけばいいのか、もう一つは遊びを増やすことについては、具体的にどうすれば遊びが増えるのか、もし皆さんのお考えがあれば教えてくださいたいと思います。

(上野体育主任)

授業改善に対しては、ウォーミングアップの改善が継続で取り組める一番簡単な方法だと思うので、授業が始まる時にみんなでグラウンドを1周走るということだけでも総合運動に関してはかなり改善されていくように思います。それから反復横跳びについては、ちょっとした動作ですので競争しなくても刺激を与えられると思います。休み時間の取り組みについては、先生と一緒に遊んであげるが一番効果があると思います。中学生も実際に昼休みにボール等を用意してあげると、元気な子は外に出てきます。そこに先生が出ていくと喜んでくれる。なかなか昼食の後の事後指導だったり、教室等に張り付かなければならなかったりする状況も出てくるので、積極的に外に出ることが難しいですが、子どもたちが一緒に遊ぶと喜んでくれる。

(佐野教育長)

私が見ている、子どもたちが遊べない、そんな現象がみられますけれども、小学生の子どもたちが外に出て、たむろして遊べない。1人でゲームはできるけれども、何人かが集まって集団的で遊べない。昔と比べて、なくなっているように思う。集団的な要素が減ってきているように思われる。人間同士の関係が希薄になってきてしまっていて、子どもたちも自分で好きなことをやっていた方がいいというようなことで流れてきてしまっているように思われます。人と交わって、みんなで集まって、交わってというところの喜び、楽しさをどこかで体験させてあげたいということを考えています。例えば、子どもたちも忙しい訳ですけども、やはり教育委員会として、みんなが集まってきているんなものを使った遊びをしたいと思っているが、参考になる意見があったらお聞きしたいです。

(上野体育主任)

スポーツ少年団や部活動の入部の傾向をみても、人との関わり、保護者を含めて、遠慮したいということがあると思います。クラブのほうを選ぶ保護者、スポーツ少年団を選ぶ保護者の話を一部ですけれども聞いてみると、クラブは送迎もしてくれるし、まかしておけばいいから楽だと、でも部活動、スポーツ少年団は保護者会があるので面倒という言葉は何度か聞いてきました。保護者自身も人との関わりを面倒だと思っている。中学校に入ってから、スポーツ少年団で集団スポーツをやっていたのが、最近だとラケット競技のテニスや卓球に変えていく傾向が数年間強まっています。そういった傾向を見ていても、何か子どもたちの中での人との関わりや喜びを感じることも、個人競技であれば、他の人に迷惑をかけない、休んでも大丈夫じゃないかという私的なことを優先する考え方が出ているのではないかという感じがします。それに対して、どのような対策をとっていけばいいのかというところは非常に難しい気がするんですが、やはり各スポーツ少年団や部活動等で保護者も含めてやっていた良かったという思いが周りにたくさん広がっていくことが大事ではないかと思います。

(小林校長)

子どもたちの体力については、体力テストの結果については非常に気になるのですが、昨年度の結果を持っていますが、それを見ると学年が上がるにつれて記録が上がってくる。それだけ慣れというものが考えられます。シャトルランについては全体的にあまり良い結果ではないですが、慣れるというか、やっていくということが非常に大事だと思います。子どもたちの体力を考えると、学校がしっかり支えていくということが大事だと思っていて、そうなるとう体育の授業と休み時間が大事になってくると思います。体育の時間はいろんな場を先生方がセットしてあげると、子どもたちは狙いに沿った活動をしてくれるが、問題になるは一人一人の運動量の確保になると思います。休み時間ということになると、子どもたちが遊びを知らない、運動の経験とか遊びの経験みたいなものがないということがあったら、体育の授業で遊びの場に即した場をつくと子どもたちが熱中して遊べる。サッカーやドッチボールだけではなくて、より多くの子どもたちが運動量をしっかり確保できるような遊びというものを考えて、楽しさということ体験させてあげれば、子どもたちは場があれば、自ら取り組んでいくのではないかと思います。そのような取り組みを今後していきたいと思っております。

(佐野教育長)

押原公園に行くと、運動しているのは高齢者ばかりで器具を使用して体

力づくりをしている。それはいいことですけれども、ただ子どもたちがいかないうのは何か原因があるのではないかと思います。押原公園や常永のゆめ広場に自由に行って遊ぶ環境づくりを私たちが考えなければならいと思っています。高齢者が使用することも非常にいいことですが、子どもたちも使えるようなことを生涯スポーツとしても考えていかなければなりません。

(小林校長)

具体的に論点を絞ってやっていくことも必要だと思います。専門的なこともありますから、町内の小学校、中学校また町が同じ考えの方の中で児童、生徒の体力をつけていくということを、共通認識で作り上げることで、効率も良くなるし、体力の向上にも繋がるのではないかと思います。

(佐野教育長)

来年度、県のスポーツ健康課の方から常永小学校に指定授業があるわけですが、これには一つ遊びを教えてくれるというものがあります。そういったものを常永小学校だけではなくて、他の2校の小学校でも実施したり、本町には総合的スポーツクラブがありますので、スポーツクラブの人たちを主体として遊びに関するイベントができればいいと思っています。

(小林校長)

個人的に元気アップの取り組みを考えていた。これによって私たちが学ぶのですが、教えてもらう。取り組みを通して一緒に学びながら教えていただく。

(清水教育委員)

私が県のスポーツ健康課にいたときに、13年くらい前ですけれども、山梨県の生徒は体力があまりにも低いから学校体育の方で立ち上げようということで、10年後に全国平均まで持ち上げましょうという一つの目標を立てました。子どもの体力上げるとするのは難しいことでありまして、シャトルランについては、十数年前に中学生の死亡事故がありまして、その時に付き添いの先生はいたのか、いなかったのかという問題で非常にもめまして、そういったこともあって、指導者が非常に神経を使わなければならない、それから測定の方法についても、大変シビアで難しいということもあります。そして筋肉の付き方でも瞬発性の白い筋肉と持久性の赤い筋肉では一緒につくわけにはいきませんので、白い筋肉は優秀な人は短距離が速い、逆に長距離はダメだし、どちらがいいのかというのも一概には

言えない面がありますので、資料の表を見たときにシャトルランについてはあまり心配ないだろうと思いますし、他のところも柔軟性が必要なところもありますし、筋力が必要なところもありますが、そんなに心配しなくてもいいと思います。楽観的な見方ですけれども、少し練習すればすぐにできるようになると思われまして、今のところはそれほど心配はいらないのかなと思います。極端に落ち込んでいるところも見た限りないので、ただそれよりも子どもたちに運動に親しむ機会を持つということと、スポーツや運動の楽しみを感じてもらう機会を多く作ってもらいたいと思います。あと、私の家から押原公園が見えますけれども、毎日、スポーツ少年団が活動をしています。昭和町でもスポーツ少年団もがんばっているし、子どもたちもよく動いています。重点的に目くじらをたててやる必要もないように感じます。今までどおり、学校の体育でお願いして、また町の方でも環境を作りながら全体で見ていってあげれば自然と上がってくるのかと思います。

(山田教育委員)

娘が、体育でウォーミングアップをすることによって、最初のころは大変だったものが、今では前は何で大変だったんだろうというくらいになった。積み重ねが大切だと思う。部活動についても、先生方が熱心に指導してくれる。その反面、部活動が3年生で引退してしまうと、先ほどの保健の話ではないですけどもかなり太ってしまう。部活動や体育はありがたいと思っている。外で遊ばないとか、友達と遊ばないというもの、うちの子どももそうできて、部活動がなければこたつに入って動かない。友達が呼びに来てても面倒だとか怠いと言って動かない。友達が家に来ててもこたつに入ってゲームをするとか、ゲーム以上の楽しさを知らない。町の方でも施設がいろいろありますが、子どもたちが利用しやすいよう考えてほしい。課題だと思います。子どもはテニスをやっていますが、コートを借りるのにお金がかかるので、河川敷まで自転車行ってやっているので、子どもに対して、施設の利用料金を考えてもらえたらありがたいと思います。

(渥美総務課長)

いろいろなご意見をいただきありがとうございます。

それでは、次の議題に移らせていただきます。

(2) 昭和町小中学校情報機器整備の基本的な考え方

① 昭和町の情報機器の現状と課題

古屋教育指導監より、説明を行った。

- ② 情報機器整備の基本的な考え方について
古屋教育指導監より、説明を行った。

(渥美総務課長)

ありがとうございました。
何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。

(碓井養護教諭)

中学校には、生徒・教師用のタブレットの配備の計画はあるのですか。

(古屋教育指導監)

技術家庭ではパソコンを使うことがメインになりますので、残しておかないとならないというところが一点と、小学校については、古いパソコンを入れ替えるときにタブレットに移行します。

(佐野教育長)

教育現場の現状やニーズを来年度以降把握することになっている。現状の調査を行っていききたいし、どのように使っていきたいということについても調査していききたい。もし、タブレット等必要なものがあれば、調査時に調査票に記入していただければ、一考できると思います。

(磯部教育委員)

先生方の要望を聞いてから検討されると思いますが、この前、学校の予算の査定時に校内のLANを更新したいという話があったがどうなったかということと、2年前くらいに研修に行ったときに塩尻市の小学校で児童たちの課題をみんなで見られるようなシステムがあるのと、教師が塩尻市内の小中学校のすべてで使用できる指導用のパソコンのネットワークができています。そういったネットワークを使用することによって、教師の負荷が軽減できるのではないかと。そういったネットワークの整備も必要ではないかと。

(五味学校教育課長)

校内LANは、小学校については昨年度で整備は終わっています。小学校については、それぞれの教室でiPadを使用できるよう整備してあります。

(上野体育主任)

中学校ではWi-Fiの整備ができていないので、理科の実験などでインターネットの映像を生徒に見せたくても見せることができないので、教員が

パソコンに時間をかけてダウンロードをするという手間をかけています。総合学習で調べ学習をするときもパソコン教室に6クラス入りきらないので、もし、LANが整備されていれば、教員のパソコン1台を使って、各教室で調べ学習が進めることができる。LANの整備に関しては早急をお願いしたいです。

(飯久保教頭)

学校間のデータのやり取りが結構あります。特に画像などの容量の大きいデータはデスクネットのメールでは送ることができない。サーバーの整備が進むようですが、整備されれば、共通のサーバーにデータを入れることができる。そういうところを計画していただいているようですのでいいと思います。iPad を使っていて、アクセスポイントも整備していただいています。場所によってはネットワークに接続できないことがある。機器の古さもあると思いますが。機器の整備は難しいこととは思いますが、使いやすいように整備していただければと思います。順次整備していただけるということで、期待しております。

(山田教育委員)

本当にすべて必要なのかと思います。いらないというものがあれば機器やメンテナンス等のお金がかからないと思います。先生方が本当に必要なか確認していただきたい。あと電子黒板も使用してくださっているのかと思います。

(飯久保教頭)

電子黒板については足りなくらいです。電子黒板があっても使用できるソフトがないという状態です。プロジェクターについては古いものですが、今まではパソコンをつないで映していましたが、電子黒板があれば必要なくなってきます。今後、プロジェクターは広い場所で大勢の児童に見せるときに使用することになっていくと思います。教室で見せる場合は、プロジェクターではなくて、電子黒板という形になっていくと思います。今はデジタル教科書というものもあります。電子黒板に映し出したりして活用しています。iPad も活用していますが、古くなってきているため、不具合が出てきているという状態です。

(志村副町長)

電子機器の整備についてですが、予算査定の時に小学校それぞれで同じレベルでされていますかということを知りたいと思いますが、ITの整備が常永小学校から始まってiPadを使い、例えば西条小学校ではiPadは使

わないから電子黒板を先に整備してほしいという中で、月日が経つうちにそれぞれバラバラに整備された。気がつくと学校によって、それぞれの機器が多いところと少ないところが出てきてしまった。そういうこともあり、今回は同じレベルになるよう整備計画を作成してもらった。情報機器に関しては5年サイクルで取り換えていかなければならないと思っている。高額なものですので計画を立ててやっていただきたい。中学校には何もありませんという話がありましたが、今まで要望がなかった。必要なものがあれば順次教育委員会に言っていただきたいと思います。

(渥美総務課長)

ありがとうございました。

その他、ご意見ございませんか。

電子機器については、教育長が言ったとおり学校のニーズ等を調査をしていただき適切な整備をしていただきたいと思います。

それでは、3番のその他、何か事務局でありますか。

皆様方から何かありますか。

(志村副町長)

子どもたちの卒業式での服装について、和服等を着る子どもが多くなってきていて、県内の市では学校が保護者に自粛するよう促しているというところがあるが、昭和町については服装まで規制する必要がないのではないかとということで新聞の記事になりましたが、どう対応したらいいかご意見がありましたらお聞かせください。

(山田教育委員)

前回の教育委員会でもそういった話が出たんですけれども、押原小学校に関してなんですけど、現在の中学3年生の子が初めて着たんですけれど、下級生が私も着たいということから広まった。今の中学1年生の子どもたちは逆にスーツの子が少なかった。お金もすごくかかることなので、ただ保護者の方も楽しみしているので、難しい問題でもあると思います。親戚が一宮にいるんですが、全員羽織・袴だったということです。

(志村副町長)

当面は見守りましょうということで、ゆくゆくは検討していかないとならないことではないかと思いますがどうでしょうか。

(上野体育主任)

卒業式は儀式的行事であって祭りではない。自分の子どもはかわいくて

いいと思うが、目立ちたいという感覚が入ってきたときには、学校が本来目指している儀式的行事とは意味あいは違うのかなと思います。

(山田教育委員)

中学校は制服なので問題なく済みますが、言われてみれば小学校は少し過剰ではないかと思います。

(碓井養護教諭)

小学校でも中学校でも卒業式は儀式的行事ですよ。

(志村副町長)

テレビで、最後の授業ですからその辺をわきまえてやってもらえればありがたいと言っていました。

(飯久保教頭)

4月の段階から保護者から問い合わせがあり、学校としては教育委員会にもお尋ねして、見解を聞いてお答えしていますが、「学校で決めることではありません。華美にはなりすぎないようにお願いします。」ということ伝えてあります。本校は11月のPTAの学校委員会でも一度話題になりました。ある保護者はもう用意してしまったので今言われても困るという意見。皆さんはどうですかということで、今年もいるのかなというところ。袴でトイレに苦勞することがあるので緊急時に対応するために一人担当を配置することにしてあります。華美に派手になりすぎないようにという話はしていますので、あとは保護者の判断になります。

(佐野教育長)

私も気になったので調べてみました。常永小学校で年は男子は1名、女子は1名が袴だった。常永小学校でも学年総会で華美にならないようにお願いした。西条小学校につきましては、同じように2名から3名が袴だった。西条小学校でも同じように保護者にお願いしたということです。昔は中学校の制服を着て卒業式に出た時代があった。その時に出た話が、中学校の入学式ではないのだから普段着ている服を着ていくことが常套でしょうということになった。だんだん保護者の考えも変わってきて、一生に一度だからということから小学校でも羽織、袴を着るようになったのだと思います。親に対して教育委員会で一斉に羽織、袴はやめてくださいということは、保護者の気持ちも考えたときに言えないと思います。教育委員会とすれば、華美な服装を避けて常識的な中で卒業式を行うということが現状であります。

(山田教育委員)

私立の小学校に関しては中学校の制服を着て卒業式に出ます。男子に関しては1回のために買うのはもったいないということで、中学校のズボンをはいて白いシャツを着て、お父さんのネクタイでいいよねっていう家も結構あったみたいです。スーツにしても1回のために買わないとならないので、お金がかかるので親の判断になると思います。

(古屋教育指導監)

富士吉田市では市長が卒業式に出た際に、これはおかしいということで学校の儀式なのであまり華美になりすぎないようにということでした。

(渥美総務課長)

他にご意見はございませんでしょうか。

それでは、本日は様々なご意見をいただきましたが、皆様からのご意見は、これからの教育行政の中で生かしていけるよう努力したいと思います。

本日は長時間にわたりありがとうございました。